

一風流、清楚も一雅趣のみ、瀧と云へば、直ちに豪放の姿を想起するは、自然の數にして、真趣の在る所なるも、瀟洒優雅、自然其の名の由來する所にして、其の姿の表する所、此の瀧の如きは、強ち、罪を作者にのみ歸すべからざらんも、少くも、名に泥みて瀧の真趣を閉却したる迹は、歴々徴すべきにあらずや。題に泥みて瀧の眞を忘れざらんは、見ん人の注意なるべきなり。況んや之れ等の國風、彼の

日照香爐生紫烟

遙看瀑布掛長川

飛流直下三千尺

疑是銀河落九天

と曰へるものに比すれば、雄大跌宕、寧ろ之に存して、着想亦遂に此の一絶の外に逸する能はず。其の稍々趣を異にせるものも、纔かに、織折を競ひて氣魄に乏しきは、大に察すべき所ならずや

國風源流二千年の昔に比して、今に至る迄、遂に甚だしき進歩革新を見る能はざるは、泥つ所在にわらざるか。否か。

(完)

金の亞米利加

亞米利加人は全体虫歯の多い人間なので有名で、従つて亞米利加と云ふ國は齒科醫術の發達して居るので有名だが、此國で毎年天國へ昇る人が其遺骸と共に地下に遺して行く入齒金の總額は實に大したもので、其額は無慮百萬圓に達するそうだ、そこで或人の統計によると斯う云ふ風にして三世祖も續いたなら地下に埋れる人齒の金が總計二億八千六百萬圓となり、即ち現時合衆國に流通する總金額に相當するだけの巨額に昇るそうだ。

松川浦に遊ぶ

小林雨峰

予の東奥に遊ぶとこゝに三たび、遊ぶごとに何事をかものす、この稿數年前草せしもの今年また此のあたりに至れるも遂に松川浦に遊ぶず、されども曾つて見し、浦曲の景色思ひ出されて